

科目名	Tokyo P-TECHプロジェクト実習						年度	2025	
英語科目名	Tokyo P-TECH Special training						学期	通年	
学科・学年	情報処理科 1年次	必/選	選P	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	Tokyo P-TECH関係者、大矢	教員の実務経験		有	実務経験の職種		IT関連職種		

【科目の目的】

最新技術を業界のプロフェッショナルの指導のもと、プロジェクト方式で体験し、アウトプットすることを目的としています。多様性が求められる昨今、さまざまな環境にいる人との交流を通じて、多様な価値観を持つ他者への理解を深めることが重要です。本実習では、Tokyo P-TECHの関係者によって知的好奇心や探求心を刺激し、他者との協働や競合を通じて、想像や発想を具体的な形（モノやサービス）にする取り組みを体験します。

【科目の概要】

他学科や地域、企業と連携して課題解決に取り組んだり、各種コンテストに出場したりすることで、プロジェクト単位の活動を通じてチームの役割を学びます。また、プロジェクトは期間中に複数回取り組む予定です。

【到達目標】

地域連携やコンテスト出場を通じて、メンバーで成果物を完成させることを目指します。最後まで成果物を完成させることで、専門技術の向上を図ります。また、プロジェクト活動を通じて、学生間の問題解決力、対話力、合意形成力を養い、プロジェクトマネジメントの基礎技術を身につけることを目指します。

【授業の注意点】

本講義では、学生が主体的に学習する姿勢を重視します。具体的には、事前調査の精度や外部講師への積極的な質問、そして他者との関わりを評価します。聴講後のレポートには、聴講内容をただ羅列するのではなく、自分の考えや新たに学んだことについて調査した結果も記載することが求められます。授業には出席するだけでなく、社会に出ることを考えた受講マナーを守って参加することが必要です。ただし、授業の出席が4分の3以上ない場合は、成績を評価することができませんので、注意してください。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している		最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある		最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない
到達目標 B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している		最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある		最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない
到達目標 C	プロジェクト活動を行う上で自らの役割、責務を認識し行動することができる		プロジェクト活動を行う上で自らの役割を認識し行動することができる		プロジェクト活動を行う上で自らの役割や責務を理解することができない

【教科書】

レジュメや資料を配布します。また、参考書や参考資料については、講義ごとに指示を行います。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

授業内容の理解度を確認するためにレポート作成を実施します。授業時間内に行われる発表内容について評価します。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		Tokyo P-TECHプロジェクト実習			年度	2025
英語表記		Tokyo P-TECH Special training			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	事前調査	テーマにそった知識を調査し、情報を整理することができる	1 調査方法	必要な情報を得るための調査方法を身に着ける	3	
			2 事前調査	テーマに沿った事前知識を習得する		
2	プロジェクト遂行	整理した情報をメンバーと共有するために説明することができる	1 情報整理	調査した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2 対話	調査した情報を他者に効果的に説明・共有できる		
			3 設計製作	プロジェクトにおける自分の役割を実行できる		
3	中間報告会	他者の前で発表し、質疑応答の対応ができる	1 報告書作成	新規性・論理性・実現性について理解する	3	
			2 発表と質疑対応	質疑応答を介して知識を深め、広げることができる		
4	プロジェクト遂行	整理した情報を他者（企業）と共有するために説明することができる	1 情報整理	調査した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2 対話	調査した情報を他者に効果的に説明・共有できる		
			3 設計製作	プロジェクトにおける自分の役割を実行できる		
5	プロジェクト報告会・成果物および報告書のまとめ	自らの体験をもって自信につなげることができる	1 最終報告書作成	これまでの一貫性の確認と更なる発展性について理解する	3	
			2 発表と質疑対応	質疑応答を介して知識を一層深めることができる		
			3 制作・実証検証	失敗や成功の体験を繰り返し目的を達成する		
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等